広島大学附属中・高等学校研究紀要
〈第50号　2003〉

音楽科における異学年合同学習についての考察（2）
――音楽を通してのコミュニケーション能力の育成をめざして――

増　井　知世子

高校生と小学生との音楽交流は，本年度までに３年間継続して行ってきた。今までにも一定の成果は見えてきているが，今回は音楽を通してのコミュニケーション能力の育成を一つの柱として取り組んだ。
今回の交流のポイントは次の２点である。(1) 交流に先立って，聴覚的なスキルの向上と自己学習力の育成をねらったヴォイスアンサンブルの学習を設定したこと，(2) 交流の中で，小学生から自分のグループの高校生へ宛てた手紙を渡す機会を設定することによって，一人一人の高校生にとって交流が自分のものとして感じられるようにし，次の交流で指導する内容を明確にしたことである。
本稿では，研究の区切りとして，実践記録のまとめと考察を行う。

１．はじめに

2001年度から本年度までの３年間にわたって，高校生と附属小学校の児童との合同学習(音楽交流)を試みてきた。これまでの取り組みから，異学年合同学習の意義は見えてきている。すなわち，高校生たちは小学生に教えることで音楽的知識や演奏技術について新たな発見をしたり自分を見つめることができること，一方小学生は高校生に触れ合う中で教わることで，学習に個人的な意味を見出すことができるという点に集約される。

音楽科では生涯学習の一環として音楽学習を位置付けている。音楽を通してのコミュニケーションの能力をもっていれば，例えば将来国際的な交流の場にあっても有効に発揮されるであろう。高校生と小学生との音楽交流は，もともとそれ自体相互のコミュニケーションから成立するものである。昨年度は特に演奏スキルの向上に主眼をおいたが，本年度は，自主的に学習を進める力をも含めた総合的な力としてコミュニケーションの能力の育成を目標に掲げて取り組むことにした。

本年度の交流のポイントは，３回の交流の間に小学生から高校生に手紙を書き，高校生がそれに応えるといったことを仕組んだ点である。交流に先立って，本年度の１学期に，ヴォイスアンサンブルの学習を行った。

２．１学期のヴォイスアンサンブルの取り組み（４月～５月）

これは，楽器に頼らずに，少人数のアカペラで歌うものであり，各自が自分のパートを確実に歌えていることや，互いに聴き合いながら音程を保つ能力が必要とされるものである。

５～６人のグループを組み，課題として取り組む曲を決めさせた。グループは男子のみ，女子のみで編成されたところが多かったが，１組だけ混声のグループができた。生徒の選択した曲は，ポップスが多く，また，もともと合唱曲として作曲されたものもあれば，あとで合唱に編曲された形のものもあった。

練習ではピアノやキーボードなどの音程を取る楽器を使っても良いことにしたが，発表はアカペラで行うこととした。ほとんどのグループはリーダーのもとで協力して練習を進めていた。音程の合わない箇所は自分たちで指摘し合っていた。しかし中にはリーダーの不在や意欲・協力の不足でうまくいかないグループもあり，指導者が巡回してＣＤなどの音源を提供したり練習に参加したり，時にはそのグループの力量に応じて即興で編曲したりして支援した。

発表前にはグループごとに本番どおりのリハーサルをした。並び方から合唱の初めと終わりの合図などの仕方について指導した。

発表日はちょうど教育実習の期間にかかったこともあり，実習生も合唱を披露し一つの交流になった。

この取り組みを通して学んだこととして生徒たちが挙げた事柄を整理してみた。

＜ヴォイスアンサンブルで学んだこと＞
ア．歌うことの楽しさについて
・器楽の楽しさと同じくらいの，歌うことの

楽しさ
・うまくハモったときの気持ちよさ
・ピアノなしで歌うことの新鮮さ。次回はヴォイパを入れてみたい。
イ．協力の大切さについて
・チームワークの大切さ，一体感
ウ．選曲，演奏技術，練習方法について
・選曲をあやまったこと
・好きな曲でハモリを考えたこと
・腹式呼吸
・曲にのれたら声が前に出て響きも良くなること
・互いの声を聴いてハーモニーを感じること
・アカペラはむずかしいこと
・少人数なので互いに指摘しやすく，一人ひとりがきちんと練習できたこと
・練習方法を自分たちで決めて実行したこと
エ．発表会を通して
・人前で歌うことのむずかしさ
・人の演奏を聴くことの大切さ
・自分たちがまじめに歌うことも大切であるが，人がまじめに歌っているのを見ることも大切であるということ
・表現の仕方にはいろいろあるということ

この取り組みを通して，アカペラで歌うことによる聴覚的なスキルの向上がみられたとともに，歌うことの楽しさや協力の大切さを知り，少人数グループの中で気づきを互いに指摘したり練習方法を自分たちで考えたりする力を獲得することができたと感じている。この力が，交流時にコミュニケーション力として発揮されることを願って交流を計画した。

3．学習計画の概要

(1) 学習計画にあたって留意したこと

昨年度の取り組み後の高校生の反省として“もっと交流がしたかった”“教えるべきことやどうやって教えたらよいかをあらかじめじっくりと考えて取り組みたかった”というものがあった。この反省を踏まえ，本年度の取り組みで工夫した点は，1グループあたりの人数を減らして互いによく話ができるようにしたこと，高校生が指導する内容を合唱に関することに絞ったこと，交流から次の交流までの間に小学生からの手紙に書かれている質問事項に対してどう答えどう教えるかについて高校生に考えさせたことなどである。

(2) 学習計画

＜対象生徒＞高Ⅱ音楽選択者（81名）
＜題目＞高校生と小学生の音楽交流
＜学習目標＞
①異学年合同学習を通して，自分自身や，音楽学習に関して自分たちが歩んできた道筋を再認識することができる。
②小学生を教えるための方法や手段を考えて実践することによって，音楽を通してのコミュニケーションの能力を培うことができる。
＜教材＞「大地讃頌」（大木惇夫　作詩，佐藤眞　作曲）
＜学習計画＞（13時間）
第1次　交流までの各校での取り組み
合唱・合奏練習，グループ分けなど　…3時間
第2次　実際の交流および準備　…9時間
①第1回の交流
顔合わせ，小学生による既習合唱曲の演奏，高校生のグループによるヴォイスアンサンブルの演奏，グループ別の交流
②第2回の交流に向けての準備
第1回の交流後，「大地讃頌」を歌うことに関して，小学生が高校生からどんなことを教えてほしいと思っているかについて，同じグループの高校生に質問した手紙を読み，次回の指導に向けて各グループで方策を練る。
③第2回の交流
各グループの課題に基づいて高校生が小学生を教える。グループ合同でも練習する。全体の合唱奏を行う。
④第3回の交流
グループ合同練習と発表。全体の合唱奏をする。
第3次　交流のまとめ　…1時間

4．交流の経過

(1) 第1次の経過（9月）

小学生との交流に先立ち，高校生のグループ分けから行った。「大地讃頌」の同声3部合唱版の各パートを全員で歌った後，各自の声域に従ってソプラノ，メゾソプラノ，アルトそれぞれ5グループから成る，計15グループに分かれた。初めは，この小学生用の編曲のアルトパートは，高校生にとっては男女とも低音域で歌いづらく，アルトの希望者が極端に少なかったが，人数調整して，グループで人数に差はできたものの交流が可能な形になった。このグループ分けを通して，混声4部合唱の「大地讃頌」が高

校生の声域に適していることを再認識した。

高校生たちは全員が3部合唱版と混声4部版の両方を歌えるように練習した。これは，前回の交流で同じ曲を歌う場合に小学生と楽譜が（編成が）違っていて，練習がむずかしかったため，高校生が小学生用の楽譜でも歌う必要があったからである。しかし2通りの旋律を覚えなければならないため，混乱した生徒も少なからずいた。その後，全体で約80名の生徒のうち約20名をオーケストラ伴奏のメンバーとし，パート譜を配布し個人練習に入った。

(2) 第2次の経過（10月～11月）

①第1回の交流（10月10日）

小学生たちの既習曲の合唱を鑑賞。力があふれ，かつさわやかな演奏であった。高校生たちは思わず“かわいい”という声を発していたが，一生懸命に歌う姿にひきつけられていた。その後高校生の2グループがヴォイスアンサンブルを披露した。

講堂と小中高の音楽室と小学校の教室を使い，15グループの交流が始まった。初めはぎこちなかったが高校生のリーダーのもと，自己紹介に始まりグループ練習を行った。グループによっては椅子取りゲームなどを取り入れて，交流の時間を長めに取ったところもあったようである。最後は講堂に集合し，全員が合唱して締めくくった。（高校生は交流時は3部，合唱時は4部で歌うことにした。）

②第2回の交流に向けての準備（10月17日）

この日までに，前回の交流を終えて小学生たちが同じグループの高校生に宛てた手紙（後掲の資料参照）を小学校から受け取り，高校生に渡した。高校生たちは非常に興味深く読んでいた。手紙の内容は，前回の交流を終えてのあいさつと，次回教えてほしい事柄についてである。強弱記号や曲の歌詞の内容，また高い声の出し方などに関するものが多く見られた。リーダーを中心に，次回にどうしたらよいかについて課題をメモした。（同資料）

③第2回の交流（10月24日）

各グループごとに高校生と小学生が再会し，高校生たちは，練習の中で前回の手紙の質問に対して説明を行った。前より互いに打ち解けた様子であった。グループによっては，強弱記号と意味を説明するために教室の黒板に板書したり，クイズ形式で質問したりしていた。発声法について説明しているグループもあった。その後，ソプラノ，メゾソプラノ，アルトの各パート1グループずつの合同で，他のパートを聴きながら歌う練習に入った。今までより人数が増えるためまとめるのが大変そうであったが，リーダーたちが協力して練習を進めた。

最後に，オーケストラと合唱で合わせた。小学生たちにはオーケストラの楽器を間近に見る機会はなかなかないようで，“楽器を吹いてみたい”という声もあがっていた。

初めての合唱奏は，オーケストラと合唱のバランスが少し取れていない感じがしたが，それは次回までの練習で調整しようと考えた。

④第3回の交流（11月14日）

この日は本校の教育研究大会当日でもあった。小学校講堂に集合した後，前回の合同グループで合唱練習をした。その後，互いの練習の成果を聴き合うことを目標に，2グループが前に出て演奏した。その後，演奏についての気づきを発表した。高校生よりも小学生の方が活発であった。姿勢を良くして歌うと良い，バランスがあまり良くない，などの意見が出た。ただ，高校生の一部に，本筋から少し逸れた言動をする者がいたことは残念であった。

最後に，前回行ったように合唱奏をした。数回の演奏のうち，最後の演奏は全員の息がぴったり合った，すばらしいものになった。

5．交流のまとめ

(1) 本年度の取り組みについて

学習後，交流のまとめとして，高校生にアンケートをとった。

項目1	交流を振り返って，各班で小学生にどんなことを教えたか，また一緒に練習する際に気をつけたことを思い出して書いてください。

教えた内容については，音程の確認，強弱記号，ブレスの取り方，高い声の出し方，歌うときの姿勢，マエストーソなどの意味，他のパートにつられない方法などであった。気をつけたことについては，“歌う時の小学生の表情を見ながら，どこでどんなことに困っているのかを読み取ろうとした”“小学生にもわかりやすい例えを使って表現した”“コミュニケーションも大切にして，練習の合間にテレビの話など歌以外のことも少し話した”“小学生は元気よく歌っていたので，私たちは高校生らしい声で歌うように努力した”などがあった。

交流の中で指導者が巡回して観察した以上に，生徒たちは小学生に対していろいろと気を遣っていたことに気づいた。また上記最後の記述からは，小学生と接したことで自分たちの声や歌い方を客観視することができていることがわかる。

項目２　小学生に教える中で，発見したことや学んだことは何ですか。

小学生たちはよく練習していて教えることがないくらいにうまかった，純粋で素直であるというものが多かった。“教えることはむずかしく，自分たちも基礎がたいしてわかっていないことを発見した”というのもいくつかあり，これは自己発見という意味でこの取り組みの大きな目標の一つを達成できたといえる。また“小学生は声が高くてうらやましい”という記述が男子に多くみられるが，変声したことから自分の歌声に自信がもてていないか，あるいは自分の成長の過程を振り返っての思いであると解釈することができる。

項目３　グループで練習する時，１学期に行ったヴォイスアンサンブルの体験を活かすことができましたか。(囲む)		
できた	よくわからない	できなかった

集計の結果，できた…35名，よくわからない…37名，できなかった…５名であった。ヴォイスアンサンブルの体験が交流に実際にどのように活かされたかについては，自己評価がむずかしかったかもしれない。質問をもう少し限定するとよかった。

項目４　こうすればよかったと思うこと，またその他気づきや感想を書いてください。

“もっと話をして，打ち解ける時間がほしかった。”“練習の段取りを話し合ってきちんと進めればよかった”“心を一つにして歌うことがやっぱり一番大切なことだと思います”“教室に音程を取るための楽器があればよかった”“楽譜を見ずに歌えるように，交流の前から意識して覚えるようにしておけばよかった”“もっと小学生にいろいろなことを教えてあげられたらよかった”“小学生にしかできないことをもっとよく出していけるように指導していけばよかった”などがあった。

(2) 数年間の取り組みの総括

1998年度から６年間にわたって，附属小学校との共同研究を継続してきた。最初の３年間は，12年一貫教育の理念に基づいたカリキュラムの構想に始まり，小中高の教官がティーム・ティーチングで双方の学校で指導する取り組みを行った。その際に各教師の専門性が発揮されるような，コース選択の授業も試みた。

2001年度から本年度までの３年間は，高校生と小学生の合同学習を行った。交流の時間が少ないという反省が毎年のように出ているが，本年度は３回の交流の機会をもつことができ，最も充実していたと思う。昨年度の生徒の反省の一つであった，教えることに自信がない点については，今回も反省はあったものの，生徒が活発に交流していた様子は実際観察することができ，教えることができた内容もグループによっては専門的なレヴェルのものもあったようである。

グループを細分化して１グループの人数が少なめであったことも，交流を深めるのに良かったと思う。ただ，生徒にとってはやはり時間が足らないようで，もっと楽しい歌もたくさん歌い，話をする時間がほしいという感想が多い。しかし時間割調整の関係でどうしても制約があるのが惜しまれる。

今回はリーダーたちが実によく活躍したが，より多くの生徒たちが，自信をもち，音楽面でのリーダー性をもてるようになってほしい。このことは，小学生との交流ということから離れて，高校生同士の教え合いの場にあっても望まれることである。

６．おわりに

本年度の取り組みは，音楽を通してのコミュニケーションを一つの柱として進めていったものである。本稿でこの実践をまとめようと思ったきっかけにもなったのは，本年度の11月15日に本校で開催された教育研究大会の全体講演において，東京大学の山内祐平氏が情報化社会での新しい学びについて話をされた内容に共感したからである。山内氏はその著書の中で，次のように述べている。

“生活や労働の状況以外にも子どもが意味を感じるものは存在するが，一番大きなものは，コミュニケーションすること自体の楽しさであろう。子どもたちは自分が書いたメッセージに返事が返ってくると大きな喜びを覚え，メディアから新しい情報を得れば驚きや興奮を感じる。その素朴な感情は，人間がコミュニケーションする動物であるところから発するものであり，メディアを介したコミュニケーションであってもその本質が変わるわけではないのである。”[1)]

メディア教育論の中での論述ではあるが，現在の情報化社会においては一層，学びにコミュニケー

ションが求められていると考えられる。

また山内氏は，学びのコミュニケーションのサイクルとして受容→表現の繰り返しによるらせん形学習を提唱している。[2] 表現領域が多くを占める音楽学習をコミュニケーションの視点からとらえ直した授業構成についても今後考察してみたいと思っている。

引用・参考文献

1）山内祐平，『デジタル社会のリテラシー』，岩波書店，2003，204－205.

2）同上，207－208.

〈資料1〉第1回交流後の高校生の反省メモ（上）と，小学生の手紙を読んだ後の高校生の課題メモ（下）

本時のまとめ　（班名 M1

・練習はうまく進みましたか。（囲む）　◎　△

・グループ内で、声をそろえて歌うことができましたか。　○　△

・小学生から何か質問が出ましたか。あれば具体的に書いてください。

（最後のmの音程がとりづらいっていう意見が出ました。）

・練習の際に困ったことがありましたか。あれば具体的に書いてください。

（小学生の男の子にきらわれた…次はがんばりたい。）

本時のまとめ　（班名 A1　）

・練習はうまく進みましたか。（囲む）　◎　△

・グループ内で、声をそろえて歌うことができましたか。　◎　△

・小学生から何か質問が出ましたか。あれば具体的に書いてください。

（質問だけでいけど、好きな歌とか、趣味とか教えてもらいました。）

・練習の際に困ったことがありましたか。あれば具体的に書いてください。

（ピアノが遠かったから音とりがあまりできなかった。）

↳ でも、小学生たちはとても上手に歌えていた。

手紙を読んで

M3

・声の強弱 ⟶ 楽譜を見て、強弱の変わり目で、そのつど指示を出していくことで、強弱の意識を持ってもらう!!

・「平和な～」の歌い出し ⟶ 直前のピアノ伴奏のメロディーを覚える。「平和な～」までの、休んでいる間をカウントする。

〈資料２〉小学生からの手紙

M3

この前（10月10日金曜日）は、「大地讃頌」を細かく、ていねいに教えていただいてありがとうございました。最後の所は特にていねいに教えていただいて、とてもよくわかりました。

あと二回ありますが、教えていただきたい所は、「平和な…」の所の出だしと、歌の強弱があまりよくわかりませんでした。あと二回の合同練習、よろしくお願いします。

それと、ゴメパラーズはすごく感動しました。赤ペラで、すごく歌声がきれいでした。

今回の合同練習は、とても楽しい授業でした。この先、あと二回ありますが、その時はよろしくお願いします。

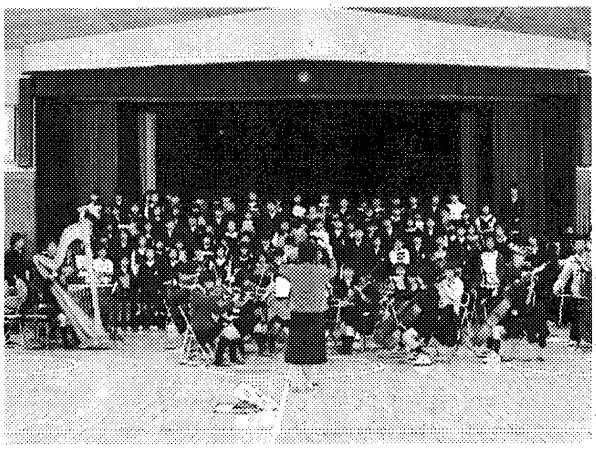
この前はありがとうございました。

A1

音が外れてるところとか、ピシッと指揮してもらって、良かったです。「はなる～」のところが、入るのにいつも失敗してたけど、二、三回くり返すうちに最後にはちゃんと入れるようになってよかったです。ありがとうございました。

話のネタがあんまりなかったけど、うちのグループはトリビア好きが多いです。ちなみに私は、自作ネタを持っています。（ちこし）

好きな歌は、「虹」です。ウォーターボーイズ主題歌の、福山まさはるが歌っているやつです。

次の時に教えてもらいたいことは、歌詞の意味です。自分で歌っているくせに意味がサッパリです。平和っていうところで爆発系なのは分かりますが、それ意外がアラビア語ハ聞こえて危ない状態です。アラビア語を日本語に訳してもらいたいと思います。

〈資料３〉交流の様子